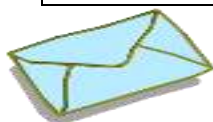


全国保健師長会
群馬県支部 **ミニつうしん**
平成29年度 第2号

発行日

平成30年2月5日
支部長 神山 智子



支部長あいさつ

支部長 神山 智子

立春とは名ばかりの厳しい寒さが続きますが、皆様お健やかに過ごしてはいかがでしょうか。

日頃から、会員の皆様におかれましては、研修会への参加、各種調査へのご協力等、保健師長会の活動に多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

どのような支部活動を行うことが、皆様方の日頃の業務の応援になるかを日々考えています。全国保健師長会からの事務連絡に加え、支部からの連絡についても、時々ではありますが行っていきたく思っております。保健師として、行政職員として、人としての視野を広く持ち、住民のための健康なまちづくりを皆で一歩ずつ行えればと思います。

前回のミニつうしん（10月）以降の事業は、次のとおりです。

今後も、会員皆様のご理解とご協力をいただきながら支部活動に取り組んで参ります。皆様方からのご意見、ご要望もいただきたいと存じますので、随時メール等でご連絡いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆全国保健師長会代議員総会

平成29年11月18日（土）新潟県新潟市 新潟グランドホテル

出席者：神山支部長、国定副支部長、割田監事、群馬県健康福祉部増田さんの4名

基調講演・シンポジウム：「みる」「つなぐ」「動かす」公衆衛生看護活動をめざす
～今の時代に求められる保健師活動の可視化とは～

総会：事業報告、役員改選

◆研修事業

平成30年1月27日（土）14時～16時、高崎市総合保健センター3階第4会議室

テーマ：これからの保健師業務のあり方～保健師として育て合い、自らも育つために～

講師：公益社団法人日本看護協会保健師職能委員長 中板育美氏

出席人数：97人（会員49人、非会員48人）

群馬県保健師会と共催で実施

◆調査事業

- ・保健師活動指針に関する策定状況調査：県医務課の協力で支部長対応
- ・都道府県型保健所における新任保健師の現任教育に関する調査：県医務課看護係及び県保健福祉事務所2か所の協力

◆その他事業

- ・「全国保健師長会40周年記念事業関連」平成30年度に40歳になる保健師からのメッセージ（1名）：高崎市の協力をいただき提出
- ・「平成31年度地域保健施策及び保健活動の推進に向けた国への要望」意見提出

北関東・甲信越ブロック研修会



参加報告

日時：平成29年9月23日（土）

場所：長野市保健所

全国保健師長会 北関東・甲信越ブロック研修会に参加して

市町村 保健師

長野県で開催された、標記研修会へ参加してきました。

今回、支部の役員をさせていただくことになり、研修の機会があれば積極的に行こうと思ひ、参加させていただきました。当日は、雨上がりの晴天に恵まれ、山々の美しい景色につられ、早めに到着した長野駅から長野市保健所まで、ウォーキングで向かいました。今回、群馬県からは、私の他、支部長と渋川市、伊勢崎市からの4名が参加しました。

開会の後、本部報告として全国保健師長会の青柳会長のお話を伺いました。話を聞くのは何回目かですが、全国保健師長会の歴史から、会員数の伸び、昨年度の活動報告、今年度の活動計画、活動方針、最重点活動目標をパワフルかつ丁寧に説明していただきました。平成30年度には、40周年記念事業として開催する準備を進めているということで、一つの節目を迎え、築いてきた歴史を踏まえ、未来の保健師活動につなげる大切な1年と思ひました。

研究班の報告では、「地域包括ケアシステムの構築の推進にかかる保健師の役割に関する研究」について伺いました。地域包括ケアシステムは、新しい時代の活動のようにはうたわれていますが、従来私たちが活動してきた保健師活動そのもので、地区診断から始まる保健師活動です。経験して積んできたものを、指数など数字で評価し、考察を加え修正して事業化していくことで、改めて保健師の役割を認識し、次世代にもわかりやすく伝えられると思ひました。

グループワークでは、保健師長会のベテラン保健師と、入職2～3年目という年齢幅のあるグループに所属しましたが、保健師活動という話題では、とても話がはずみました。それぞれの経験の中で、今進めるべき人材育成という内容で、組織で取組むこと、自分が向上することなど、話題を共有できました。皆さんの思いやパワーに力をいただいた時間でした。

研修に参加させていただき、有意義な時間を持つことができました。また、職場に持ち帰り生かしていこうと思ひます。ありがとうございました。



<あいさつ：青柳会長>

全国保健師長研修会



日時：平成29年11月16・17日

場所：新潟グランドホテル

全国保健師長研修会に参加して

県 保健師

今年度の全国保健師長研修会は、平成29年11月16日（木）・17日（金）の2日間、新潟グランドホテルにおいて、テーマ「今、保健師に求められるリーダーシップ、マネジメント」で開催された。両日で全国から約600名の参加があった。

研修1日目は、国立保健医療科学院健康危機管理研究部・奥田博子上席主任研究官から、災害時に求められる保健師の役割に関する講演と、シンポジウムで被災地を経験した兵庫県神戸市・岩手県大船渡保健所・新潟県小千谷市の活動報告があり、続いて、全国保健師長会・青柳玲子会長から、「これからの保健師活動に求められること」の講演があった。

研修2日目は、厚生労働省健康局健康課保健指導室・加藤典子室長から「地域保健をめぐる国の動向」、同省保険局国民健康保険課・鳥井陽一課長から「国保制度改革と保険者機能の強化」、新潟県立大学人間生活学部・田邊直仁教授から「現状分析に基づく目標設定と保健活動の成果・効果の可視化」の講演と、山梨県南アルプス市・新潟県妙高市から保健事業の実践報告があり、グループワークにおいて、各地域の保健活動を共有し、今後の活動展開を協議した。

2日間を通じて印象に残った内容は、災害への対応と今後の保健事業展開である。

災害への対応は、災害対策基本法関連を理解し、組織体制を整備することが必要であり、災害時活動の基本は、地区活動にあるため、平時からの保健活動が重要である。加えて、これからの保健師活動はPDCAサイクルに基づく活動強化が必要であると再確認した。

また、国保制度改革の概要とデータヘルス計画の実践、現状分析に基づく目標設定と実践等、効果的な保健事業を展開するための取組や留意すべきこと等を改めて学べた。

研修時、鳥インフルエンザ健康調査演習、新型インフルエンザ等医療対応訓練等の演習で慌ただしい時期であったが、快く県外研修に送り出していただいた職場と関係者に感謝している。

第39回全国保健師長会代議員総会

日時：平成29年11月18日

場所：新潟グランドホテル



<基調講演：佐伯教授>

支部長

代議員総会に出席しましたので、ご報告します。なお、詳細につきましては、皆様に送付いたしました資料集をご覧ください。

全国保健師長会青柳玲子会長の挨拶では、私達保健師は、個人、家族、地域に働きかけながら社会システムを整える活動を行っており、災害や感染症等への健康危機管理、虐待防止、自殺予防、生活習慣病対策、地域包括ケアシステムの構築等、不確実性の高い課題にこそ地域特性に応じた専門性の高い活動の展開が求められるとしています。多くの課題

に対処するため、産業・教育分野等との連携も強化し、「社会の課題に向き合う保健師活動の展開～保険・医療・福祉をつなぎ安心して健やかに暮らせるまちづくりの実現～」を平成29年度全国保健師長会の活動テーマに掲げ、保健師活動の可視化及び質の向上等に取り組んでいると話されていました。

また、平成30年度には全国保健師長会は発足40年を迎え、保健師活動の原点から住民とともに創る未来をめざし、引き続き公衆衛生看護活動の使命を全国の会員と確認・共有していくと話されました。

基調講演・シンポジウムとも、テーマは、「「みる」「つなぐ」「動かす」公衆衛生看護活動をめざす～今の時代に求められる保健師活動の可視化とは～」とされ、内容は以下のとおりです。

<基調講演> 講師：北海道大学大学院保健科学研究院 教授 佐伯和子氏

ベストプラクティスを生み出す保健師活動のコアは「みる」「つなぐ」「うごかす」であると平成19年に提唱されたが、その基として、保健師として生活をとらえる「視点」、ありのままを受容する「姿勢」、地域に向く「価値」等の理念的コアが重要であり、保健師としての経験の何をどう継承するかが問われている。

平成19年から10年経ち、「地域包括ケア」や「地域医療」「在宅ケア」「子育て世代包括支援センター」の推進等が新しい政策としていわれている。

これらはこれまで保健師が推進してきたことだが、新たなこととして政策が立ち上がった背景には、保健師活動の成果が伝えきれていなかった、あるいは伝え方が弱かったのではないかと。また、多職種がアウトリーチとして地域に活動の場を広げていることから、時代の変遷とともに保健師の役割についても、しっかりと見つめ直し伝えていくことが必要である。保健師活動の不変のコアは、社会的視点で弱者の救済に向かうことであり、各機関や多職種をつなぐ黒子としての活動を、これからは、チームの皆へも「見える化」していくことが大切である。そのためには、活動をまとめ、公表していくことが重要となる。

<シンポジウム>

長野県は県保健所の立場から、健康長寿のさらなる延伸に向けた「信州 ACE（エース）プロジェクト」の展開について、新潟市は政令指定都市の立場から、モデル地域での健康課題の分析を基にした健康プロジェクトについて、新潟県見附市は市町村の立場から、自殺予防対策について報告した。

各報告に共通していたのは、「データの見える化」と「住民への開示」である。これまでの施策と、現状を分かりやすく表やグラフにまとめ、重点項目をキャッチフレーズにして住民に向けて開示することにより、目標を明確化して共有し、住民とともに事業に取り組む体制を作っている。今の時代に求められる保健師活動の可視化について、今後の事業展開の大きな示唆になる取組発表だった。

<代議員総会>

- ・会員数5,481人 代議員数274人（群馬県代議員5人 内出席3人 2人委任状）
総会は、当日出席者137人、委任状137人、合計274人で成立し、議題はすべて可決された。
- ・全国保健師長会の平成30年度活動テーマは、“未来を創造する公衆衛生看護活動の展開”ーみる・つなぐ・動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来～が採択された。
- ・次回、第40回代議員総会は、平成30年11月10日（土）愛知県で行われる。

全国保健師長会群馬県支部研修会

日時：平成30年1月27日(土)14～16時

場所：高崎市総合保健センター



全国保健師長会群馬県支部研修会に参加して

市 保健師

平成30年1月27日(土)に、全国保健師長会群馬県支部と県庁保健師会の合同研修会として、中板育美氏(日本看護協会保健師職能委員長)の講演会が実施されました。全国でご活躍の中板保健師に来県していただくため、昨夏に講演依頼をしたとのこと、役員の皆さんに感謝いたします。保健師長会会員と県庁職員のほかに、会員外の保健師が40名も参加し、若い保健師の姿も多く見られ、関心の高さを感じました。

演題は「これからの保健師業務のあり方 ～保健師として育て合い、自らも育つために～」で、現代社会における保健師活動の課題や私たちの進むべき道をわかりやすく話してくださいました。その中で、私が、特に印象深かった話は次のとおりです。

①長寿社会を迎え、保健活動の大命題は健康寿命の延伸である。共助(各種保険制度)が充実したことにより、半面として、自助(セルフケア)の低下、安易に保険を使う、互助(隣近所の助け合い)の希薄な社会となってしまった。そのため、医療費・介護給付費が増加して問題となっている。解決策として社会保障制度改革が進められているが、できるだけ保険制度に頼らないよう自助や互助が行える地域を作ること、ソーシャルキャピタルの醸成や活用、健康なまちづくりの推進が保健師に求められている。・・・保健師は、社会の要請に応じて活動しているということがよくわかりました。

②健康格差が問題となっているが、自ら健康行動を実施できる人は、行政の保健師は対象としなくても良い。健康格差の解消のためには、ヘルスリテラシーの低い人に働きかけることが大事である。現代は、保健師が健康教育をする時代ではなくなった。「健康検定」や「健康アンバサダー養成」など、住民同士が健康づくりを行う構想が動き出している。ヘルスリテラシーの低い人の行動変容は難しいので、生活するだけで健康となるまちを作れば良い。まち全体を変えていくことが保健師活動である。例えば、スーパーや食堂に、カロリーや野菜摂取を考えた売り方やメニューを変えてもらう。・・・なるほどと感心しましたが、そこまでできるかなとも思いました。

③家族の問題は複数世代化、多問題化しており、単係、単事業では解決できない。多世代型アプローチの必要性、各機関の連携が必要になっている。保健師活動は、事業の実施を目標としてはいけない。事業はツールのひとつとして、係や対象を越えたまちづくりを目指すことが大事である。

④地域包括ケアは、高齢者だけのことではなく、あらゆる世代、障害や疾病の種類や有無に関係なく進めなければならない。保健師が、公公連携、公民連携、他職種協働を活性化させるしかけ作りをする必要がある。

看護師たちが「地域包括ケアは看護師の出番だ」と言っている。看護師は、訪問看護に

より病院のベッドが自宅に移るようなイメージを持っているようだが間違いである。医療の中に生活を入れるのではなく、生活を支えるために医療があると考えなければいけない。・・・生活を中心に考える保健師の出番です。地域包括ケアシステムに保健師がしっかり絡んでいかなければと思いました。

⑤保健師の専門性を明確にして、自信ややりがいを持って活動していく指標としてキャリアラダーを作った。「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会」が作成したものを、できるだけそのまま使って欲しい。各自治体が共通のキャリアラダーを使うことで、同じレベルで人材育成を行うことができる。保健医療科学院や看護協会の研修などでは対応レベルを示して行くので、キャリアアップのために使って欲しい。キャリアパスは、各自治体の状況に合わせて、人事部門とも相談の上でしっかりと作ってほしい。・・・前橋市独自のキャリアラダーを作成中だったのでショックでしたが、中止しました。

以上はほんの一部ですが、示唆に富んだ話が盛りだくさんの大変有意義な講演でした。今後の活動に活かして行きたいと思います。

<アンケート集計結果>

保健師長会(市町村) 29名・保健師長会(県) 10名・県庁保健師会9名その他32名
20歳代11名・30歳代9名・40歳代14名・50歳以上46名 計80名

- ・若手や中堅が育ち会える人材育成にできるよう参考にしたいと思った。
- ・市の研修で、キャリアラダーの活用を考えているところですが、市としてのキャリアパスをまず考えていく必要があることを学んだので再度検討したい。
- ・人材育成の基本的な考え方を学べた。現在の社会情勢を理解することができた。
- ・自分のキャリア感にとどまることなく、どの年代も人材育成に携わる意識が薄い。
- ・保健師とは何者か、という基本を再認識できた。前向きに仕事に取り組んでいく勇気がでた。
- ・統括保健師の配置はとても大事だと理解できた。他県では、政令指定都市にも配置されていないことに驚いた。
- ・PHNの仕事、本来やるべきこと等を再確認することができた。地域がよい方向に向いていくため事業を行っていくという意識を持って活動していきたいと思った。

他、沢山のご意見、ご感想をいただきました。ありがとうございました。

<平成30年度の研修会について>

今回の研修会は、平成30年6月2日(土)午後、群馬県支部総会後に開催します。講師は、厚生労働省医政局総務課長(前保険局国民健康保険課長)榎本健太郎氏です。国保の改革に関するお話しをいただきます。皆さまの参加をお待ちしています。



編集後記



今年はなんだか寒さが身にしみる感じです。インフルエンザが猛威を振るい、高熱を出している方も多いようです。お互いに健康管理に充分気を付けながら仕事に励みましょう。